

福島という
キャンパスに、夢を描く。



TN

たからものにゆーす

vol.14

夢を支え、楽しい社会をつくる。

今回、取材させていただいたのは「NPO法人ドリームサポート福島通称ドリサポ」。今日は二〇一四年十一月八日に行われたイベント「けんぼく大好き！ホクホクいも煮まつり」の反省会を行うとのこと。反省会といっても、資料片手に神妙な顔で反省の弁を順繰り述べる形式ではなく、青空のもと、本格バーベキューセットで肉を焼き野菜を焼き、一杯傾けながらの笑顔絶えないフリースタイルな反省会だ。と書く、「単なる飲み食い好きの団体じゃないか！」と勘違いされそうなので、まずは団体のご紹介を。

NPO法人ドリームサポート福島は、端的に言えば「福島を元気にする」団体である。「二人ひとりの夢を叶える創造的なベストパートナーになる」という理念のもと、「私たち一人ひとりが夢を語り、夢を抱き、魅力的な大人たちであふれる日本社会」を目指している。つまり、団体として「誰かの夢をサポートし、それを叶え、その積み重ねで、楽しい社会を作ろうじゃないか」ということだ。

メンバーは理事長である阿部幹郎さんを含め、十四名。平均年齢は四十才前後で、年齢層は三十代前半から六十代までと幅広い。また、それぞれの本職は、飲食業や建築コンサルタント、専業農家、人材育成講師、メ

ディア関係者など、多種多様な業種の経営者、または役員たちが名を連ねている。このようなメンバー構成で活動するメリットはどこにあるのだろうか。「いろんな分野のスペシャリストなので発想が豊かだし、多角的な視点で進められることかな」とメンバーの女性。他にも、「大きな団体にはないスピード感や「小回りの良さ」「周りの思惑に縛られないこと」などが挙げられるそう。デメリットとしては、それぞれが本業を抱えているためイベント時のスケジュールを上手に調整しないといけないこと。そして、個性的なメンバーが揃っているため意見の衝突があること。しかしそれは、メンバーそれぞれが活動に本気で取り組んでいるからこそそのぶつかり合いなのだろう。

福島の魅力を、もっともっと知ってほしい！

事業内容には三つの柱があり、
①若者・お年寄りのキャリア支援
②農商工連携・六次産業化支援
③商店街活性化支援
をメインとしている。では具体的に、どんな活動をしているのだろうか。いくつかご紹介してみたい。



ウチでもできる美味彩食！
ふくしま創作伝統料理ワークショップ
【第3回・川俣シャモ】

しま創作伝統料理ワークショップ」。この活動の狙いは、福島県の農産物の美味しさと県北地区に代々受け継がれている郷土料理を知ってもらうこと。講師を招き実際に調理して食べるというスタイルで毎回満席の人気イベントとなっている。第一回目は「うどんの冷汁」。冷汁というと山形や宮崎が有名だが、福島でも農家の方々の間では馴染み深い料理なのだそう。イメージは、野菜たっぷりの冷たい味噌汁にうどんを入れたもの。夏バテ気味でもずずっといける隠れた夏の味わいだ。他にも、もちもち食感が美味しい伊達地方の伝統食「だんご汁」や、川俣シャモを使った創作料理などを紹介。このように「地域の美味しい」を発掘し紹介することで、農業を元気にしたり、地元商店街活性化支援を行っている。

夢があるから、元気になる。

「秋高く馬肥ゆ」という表現がびったりくる日曜日。これだけ空が澄んでいて高いと、訳もなく「わー！」と声をあげたくなる。声の響きで空の高さを確かめたいという本能なのかな？などと勝手に想像してみる。そんな陽気のなか、雪化粧した吾妻山を正面に据え、福島駅方面から115号線を西へすいすい走る。小春日和の車中から土湯温泉の湯けむりに思いを馳せつつ、一本折れて長閑な小路へ。木漏れ日を縫って数回くねくねとハンドルを切れば、古民家を改造したという「空cafe」にたどり着く。今日はここで行われる、とある団体の反省会にお邪魔してお話を伺う。



お話を伺った場所
空cafe（福島市土湯温泉）

「つながる」ことで、元氣をつくる。

時には、他団体が主催するイベントに参加することも。大分県で開催された震災チャリティーコンサート「おおいたエイド」では、震災後の福島の今とこれからについて、副理事長の阿部尚俊さんが講演。また、福島産のジャムやドレッシングの販売では、たぐさんの方々に購入いただいた。「福島から千キロも離れた土地で、支援を続けてくれていることに、ぐっと来ました」と尚俊さん。また、同行したメンバーの菅野さんが大分で感じたことは、女性がボランティアに対して精力的で元気な町だということ。ボランティア発祥の地であるため、そういう文化が根付いているのだらう。「福島でも女性がもっと活躍出来るきっかけを作りたい」とメンバーは語る。言われてみれば、「女性の元氣」には「華」がある気がします。



おおいたエイドの販売の様子



関東の学生による農業体験の様子

関東の学生が企画した福島農業体験ツアーを、ドリサポがコーディネートしたこともある。被災地の現状に触れ、見聞を広げるのが狙いだ。果樹園でのリンゴの摘果作業や、県産もち米を使った餅つき等を企画したほか、「もつと福島の現状を知りたい」という学生の希望に応え、浪江町の請戸にも連れて行つた。荒涼とした地に立ち、学生たちは言葉が失っていた。メディアの情報と自ら足を運んで得た感覚の大きな隔りに、である。「遠くからでも支援したいという気持ちはあつたけど、その薄っぺらさに気づきました」と学生はつぶやく。「寄付金を送って頂くことは大変嬉しいことなのですが、やっぱり実際に来て見て、話を聞いて欲しいですね」と菅野さん。自分の目で見て自分の問題として感じる。そして、その感覚を持ち帰って「他人事じゃないよ」と伝えてもらうことが、福島の復興、引いては日本の未来にとって大事なことになるのだ。



「やってみたい！」
ことは盛りだくさん。

NPOとしての具体的な目標はあるのだろうか。「これ！というものはないですね」と菅野真さん。「あまりガチガチにこれ！という感じではないですね。活動の幅が狭くなってしまおうというのがその理由。間口を広く取って、他の団体には出来ないことをやりたいとのこと。だから、ドリサポの活動内容も、各メンバーが「やってみたい！」と思うことを持ち寄り、全員のゴーサインが出たら実行する方式だ。勿論全ての案が通るわけではないが、十四人それぞれの意思を尊重して決めている。

最近、力を入れて取り組んでいるのは「福島県の伝統文化を伝える活動」だ。具体的には、三味線文化、落語、飯坂芸妓、瀬上太鼓などなど。「そういうのあるって知らないでしょ？」と理事長の阿部幹郎さん。



菅野 真さん



阿部 尚俊さん

確かに、あるのにあまり知られていない文化である。「無形文化は誰かが伝えていかないとなくなってしまう」と阿部尚俊さん。店頭に並ぶものでもないし、自分たちで演じるわけにはいかないから、存在を伝えるという形で後世に伝えていかなくてはならない。そのためには、人の集まるイベントにお呼びし、パフォーマンスを披露してもらう必要がある。先日「けんぼく大好き！ホクホク煮まつり」では、三味線ユニット「飯坂だ」で「ずわいもめんこ」や、瀬上太鼓演奏の「瀬上若連」を招き、観客を大いに湧かせた。



いも煮まつりの様子

キャンパスに

夢を持って

点を打ち続けたい

最後に、理事長の阿部幹郎さんにドリサポを通じた「まちづくり」に対する夢を伺った。「福島市というキャンパスがあるでしょ？僕たちはそのキャンパスに点しか打てないけど、それをどうやって打っていくかを仲間たちと考えてるんです。それぞれの仕事で打つのもそうだし、みんなで力を合わせて打つのもそうだし、そうやってひとつひとつ点を打って『福島の絵』を作ろうというのが僕らのまちづくり活動……：かっこいいー！」と、照れ隠し（？）の笑いを交えながら幹郎さんは語る。二十代、三十代、四十代そ

れぞれの夢があつて、年を取れば取るだけ夢が広がってキャンパスも大きくなるんです。だからサグラダファミリアみたいに終わりがなく、完成しちゃうたら面白くないから、夢を持って点を打ち続けようと思ってます」。

点と点が描く福島の未来。それは決して、誰かが勝手に作ってくれるものではなく、私たち一人ひとりが打つ点によって作られる。たとえどんなに小さくても。何年か経って福島を眺めたとき、どんな楽しい絵が見えるのだろうか。今からとってもワクワクする。



NPO法人ドリームサポート福島
理事長 阿部 幹郎さん



NPO法人 ドリームサポート福島

〒960-8034 福島県福島市置賜町8番8号

TEL.024-522-0011

E-mail info@d-s-fukushima.org

facebook はこちら→



発想から発送までお客様のニーズにお応えします。

タカラ印刷株式会社

〒960-8141 福島県福島市渡利字絵馬平86-9

TEL.024-526-4303 FAX.024-526-4302

E-mail sky@inaka.co.jp http://www.takara.inaka.co.jp/



RB-Q04008



適用範囲:印刷・製本・社会調査